

2014年 6月号
通巻 148号

発行所

岩手県盛岡市中央通3丁目8-16

電話019-651-0810

FAX019-653-1057

岩手県同胞生活相談総合センター



インタビューに答える宋大使

毎月25日発行 0円 同胞生活情報誌 ハナ songsu75@yahoo.co.jp

朝日政府間会談合意/対朝鮮制裁解除、日本人包括調査、在日朝鮮人の地位問題も

5月26～28日にスウェーデンのストックホルムで行われた朝・日政府間会談で、双方は諸懸案の解決と国交正常化の実現に向けて具体的な措置を取ることで合意した。朝鮮中央通信が29日に伝えた。報道は次のとおり。

会談には、朝鮮側から外務省の宋日昊大使を団長とする代表団が、日本側からは外務省の伊原純一・アジア大洋州局長を団長とする代表団が参加した。会談で双方は、朝・日平壤宣言に基いて不幸な過去を清算し、懸案を解決し、国交正常化を実現するために真摯な協議を行った。

日本側は、1945年前後に朝鮮領内で死亡した日本人の遺骨問題と残留日本人、日本人配偶者、拉致被害者および行方不明者を含むすべての日本人に対する調査を朝鮮側に要請した。

朝鮮側は、日本側がかつて拉致問題に関連して傾けてきた朝鮮の努力を認めたことを評価し、従来の立場はあるが包括的かつ全面的な調査を行って最終的に日本人に関するすべての問題を解決する意思を表明した。日本側は、現在独自に取っている対朝鮮制裁措置を最終的に解除する意思を表明した。双方は、早期に緊密に協議しながら次のようにすることにした。

日本側は、朝鮮側と共に朝・日平壤宣言に基いて不幸な過去を清算し、懸案を解決し、国交正常化を実現する意思を改めて明らかにし、朝・日両国間の信頼づくりと関係改善に向けた問題の解決に誠実に臨むことにした。日本側は、朝鮮側が包括的調査のために「特別調査委員会」を設け、調査を開始した時点で人的往来の規制、送金および携帯金額に関連して朝鮮に取っている特別な規制措置、人道目的の朝鮮国籍船舶の日本への入港禁止措置を解除することにした。日本側は、適切な時期に朝鮮への人道的支援の実施を検討することにした。日本側は、朝・日平壤宣言に基いて在日朝鮮人の地位問題を誠実に協議していくことにした。日本側は、日本人遺骨問題に関連して朝鮮側が遺族の墓参の実現に協力したことを評価し、朝鮮領内に放置されている日本人の遺骨および墓地の処理、墓参について朝鮮側と引き続き協議しながら必要な措置を取っていくことにした。日本側は、朝鮮側が提起したかつての朝鮮人行方不明者に対する調査を引き続き実施し、朝鮮側と協議しながら当該の対策を立てることにした。朝鮮側は、日本人の遺骨および墓地と残留日本人、日本人配偶者、拉致被害者および行方不明者を含むすべての日本人に対する包括的調査を全面的に同時並行して行うことにした。このために特別な権限が付与された「特別調査委員会」を設け、調査および確認状況を随時日本側に通報し、日本人遺骨の処理とともに生存者が発見された場合、帰国させる方向で去就問題を協議し、必要な措置を取ることにした。調査を迅速に行い、その過程で提起される問題はさまざまな形式と方法で日本側と引き続き協議して処理することにした。双方は、包括的調査の過程で提起される問題を確認するために相互希望する関係者との面談と関係場所への訪問を実現させ、関連資料を共有して適切な措置を取ることにした。

- 県南会 6月18日(水) 14:30~
 - 本部第23回大会 6月24日(火) 14:00~ 本部会館
 - 金剛山歌劇団盛岡公演 9月11日(木) さくらホール(北上市民文化交流センター)
- ※北上での公演は10年ぶりになります。 同胞の皆さんの多大な協力を期待します。

時事解説 「平壤宣言履行のための行動処置」

朝・日政府間会談での合意、信頼醸成のための第1歩 26日から28日までスウェーデンのストックホルムで行われた朝・日政府間会談で、日本人の包括的、全面的な調査と対朝鮮制裁措置の解除などが合意された。長期にわたるこう着状態を打開する重要な契機だ。両国は、朝・日平壤宣言に基づいて、不幸な過去を清算し、懸案事項を解決するための具体的な措置をとることになる。 **交渉継続の条件** 朝・日両国は、平壤宣言の履行という共通の目標を確認し、それに向けた再出発の条件で一致した。そこに今回の合意の意義がある。2002年、朝・日首脳会談で国交正常化の早期実現を明記した平壤宣言が採択された。首脳会談を機に再開した朝・日会談は、本来ならば、平壤宣言の履行を議題としなければならない。しかし、両国が基本問題を議論できずに、貴重な時間を浪費する状況が続いてきた。3月末に行われた北京会談と今回のストックホルム会談で、日本側は拉致被害者を含めた日本人の調査を求めた。朝鮮側は日本政府が実施している制裁措置の解除に関する問題を提起した。いわゆる「再調査」と「制裁解除」が対置される交渉の構図は、朝・日関係がこう着状態に陥った原因を如実に示している。日本政府は、拉致問題に焦点を合わせ、国民感情を刺激した。隣国への反感を煽り、朝鮮への対決姿勢を合理化した。2006年には独自の制裁措置を実施した。しかし、制裁と対話は両立しない。政府は、悪化した国内世論によって自縄自縛の状態に陥った。無分別な圧力路線が続き、その間、朝・日の外交交渉は停滞した。このような状況を改善するには、対朝鮮制裁の解除が不可欠だ。日本は自らを縛っていた鎖を外し、対朝鮮外交で選択の幅を広げることができる。朝鮮敵視政策の最も端的な表現である制裁の解除は、日本が朝鮮と継続的な交渉を行うための最低限の条件だ。 **高度な政治判断** 今回、日本側は、1945年を前後して朝鮮領内で死亡した日本人の遺骨問題と残留日本人、日本人配偶者、拉致被害者と行方不明者を含むすべての日本人のための調査を朝鮮側に要請した。これに対し、北朝鮮側は、包括的で全面的な調査を進めて「最終的に日本人に関するすべての問題を解決する意思を表明した」(朝鮮中央通信報道)という。合意の中で、注目される一節である。朝・日間の非正常な関係によって発生し、これまで関心が向けられてこなかった問題がある。これらを一括解決して、海を挟んだ隣国の現実を直視し、共有するという朝鮮側のアプローチは、対日関係で高度な政治的判断と決断があったことを示唆するものだ。日本でいわれてきたような拉致被害者「再調査」は、2回目の朝・日首脳会談が行われた2004年にも実施されたことがある。当時、日本政府は朝鮮敵視政策を変えるつもりはなく、いわゆる「ニセ遺骨説」が出たことで、世論の関心がそこに集中した。拉致被害者の調査を目的に訪朝した日本政府代表団が、現地を確認した一連の事実、国民に正しく伝わらなかった。2008年8月、中国の瀋陽で開かれた朝・日朝実務者協議でも「再調査」と「制裁解除」に関する合意がなされたことがある。ところが、その直後に、福田首相が退陣を表明した。日本のメディアは、当時、朝鮮側が「再調査」の約束を一方的に破ったかのように伝えているが、事実は異なる。福田政権の次に発足した麻生政権は、前任者が採択した合意を継承する意志を示すどころか、制裁措置の期間を延長する決定を下し、朝鮮に対する対決姿勢をとった。 **制裁解除は通過点** 日本の立場からすると、拉致被害者の「再調査」実施は、それ相応の覚悟と決断を前提にしなければならない。「再調査」の結果を受けて、拉致問題の決着方法を国民に示すのは、日本のリーダーの役割であるからだ。福田政権の決断がどのようなものであったのか、今となっては知る由もないが、麻生政権には、その意志がなかった。安倍政権は、この問題で一步踏み込む姿勢を見せている。今回、日本側は独自の制裁措置を最終的に解除する意思を表明したが、それ自体は通過点に過ぎない。朝・日会談に臨む朝鮮側の立場は一貫している。交渉の目的は、平壤宣言の履行である。日本は、8年前、独自制裁を始めた張本人が、いま再び首相の座にいますが、ストックホルム会談で、これまでの立場を撤回し、朝鮮側と歩調を合わせていくことを約束した。朝・日会談で合意された行動措置は、対決と不信という悪循環を断ち切り、両国間に信頼を醸成する第一歩となる。平壤宣言の精神に沿って、着実に合意事項が実行されれば、両国は次のステップに進むことになる。 (朝鮮新報 金志永記者)

ドクターカンの健康講座



第137回『カロリーとエネルギー』

太る、やせるというのは摂取エネルギーと消費エネルギーで決まるというのはすでに話しました。

エネルギー消費のうち半分以上は前にも話しましたが生命を維持するために最低必要なエネルギー量である基礎代謝です。1割は体温維持のため代謝が促進されて熱エネルギーに使われます。残りが仕事、家事、運動など日常生活の活動で消費する分となります。

お腹の脂肪が気になりますか。簡単な計算で減らす方法を考えてみましょう。

脂肪1gを燃焼(減量)させるためには9キロカロリーのエネルギー消費が必要です。お腹の脂肪は20%は水分で純脂肪分は80%ですので 9×0.8

(80%)=7.2となり、約7キロカロリーを消費させると1gが燃焼(減量)します。ということはお腹の脂肪1kgを減らすには約7000キロカロリーのエネルギー消費が必要です。1ヶ月(30日)で割ると1日あたり約240キロカロリー。これは毎日1時間歩くか軽いご飯1回に相当します。1ヶ月続けて1ヶ月後に1kg減量ということになります。2kg減らすにはこの倍の努力が必要です。

どちらも根気と忍耐が必要で時にはストレスとなるかもしれません。

大事なことはあまり体重は気にせずバランスよく食べて(食べ過ぎではありませんよ)しっかり体を動かして心肺能力を低下させないようにして老化にそなえることが肝要です。

少し歩きましょう。

(協力:幸クリニック院長

姜幸一先生)